



※ 南海トラフ巨大地震

南海トラフ巨大地震について

「南海トラフ地震」とは、近い将来発生すると予測されている日本列島太平洋沖の広い範囲を震源とする巨大地震で、震度6弱以上の強い揺れに加え、大阪市の多くの地域が津波による浸水被害を受けると想定されています。

この南海トラフ沿いで起こる巨大地震は、過去にも繰り返しおこり、江戸時代以降では、1605年の「慶長地震」、1707年の「宝永地震」、1854年の「安政地震」、1944年・1946年の「昭和東南海地震」・「昭和南海地震」が発生しています。

過去の歴史からも、おおむね100～150年の間隔で大規模な地震の発生が予想され、今後30年以内にM8以上の地震が発生する確率は70%程度と考えられています。

この地震による被害想定では、最悪の場合は死者が約32万人に上るとされています。



(大阪市消防局提供)

南海トラフ地震の被害想定

死者	約32万人
避難者	約950万人
建物全壊・焼失棟数	約240万棟
経済的な被害	約220兆円
帰宅困難者	約1,060万人

(中央防災会議「防災対策推進検討会議」南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ最終報告)

[南海トラフ地震関連情報](#) (大阪市消防局掲載)

HOME へ戻る